地域組織の確立で
会員間の絆の促進を

JAMシニアクラブニュース

第104号
発行日　2016年4月25日
発行者　JAMシニアクラブ
mail jam-senior@jam-union.jp

発行所　東京都港区芝2-20-12　友愛会館11階　JAM本部内　〒105-0014　電話03-3451-2650　fax03-5440-7389

退職者連合

低所得高齢単身女性問題学習会開く

互いに学び合い・議論しながら前進しよう

退職者連合は3月3日、低所得者高齢単身女性が直面している様々な問題と向き合い、その解決のために国や自治体に働きかける政策や運動をどうつくっていくかのねらいで学習会を開いた。

主催者を代表して吉沢委員長は「3回目の開催となった。回を重ねるごとに参加者が増えている。お互いに学び合い、議論しながら前進させていきたい」と挨拶。連合を代表して井上久美枝総合男女平等局長は「現役時代の男女の賃金格差が退職後の低所得につながっている。この課題を連合の政策要求のなかにしっかりと盛り込んでいきたい」と連合と退職者連合との連携の必要性を強調した。

学習会では野田那智子副事務局長からテーマの背景と課題について提起した。続いて菅井義夫退職者連合事務局長がデータを使いながら「今、社会保障制度が揺らいでいる」と警告、その大きな要因は若者の雇用の劣化にあると指摘した。

その後、登場した講談師の宝井琴桜さんは、張扇と扇子をたたきながら参加者の笑いを誘い「低所得高齢単身女性が直面している課題は山積み、皆で声をあげ、国や地方自治体に届けよう」と訴えた。

JAMから大野事務局長と井上雅子さん（東京）が参加した。

署名活動の成果を携えて
301万筆とともに官邸へ要請

経済的に困難を抱える若者たちが、大学で学ぶために借りた奨学金という名の借金のためローン返済に苦しめられている。こうした状況を改善しようと運動に立ち上がった中央労福協）と奨学金問題対策全国会議は3月22日、総理官邸で世耕弘成内閣官房副長官に会い、給付型奨学金制度の導入などを求める301万筆の署名目録を手渡し、奨学金制度の改善と教育負担の軽減を求める要請を行った。JAMシニアクラブは退職者連合と共に署名活動に取り組んできた。

「熊本地震」災害救援カンパのお願い

4月14・16日に熊本県を中心に起きた地震によりJAM加盟労組や組合員・シニア会員を含め甚大な被害がでています。シニアクラブは現役の募金活動と連携して取り組むこととします。具体的には事務局からの通達を参照してください。

ものづくり、人づくり、くにづくり

党の躍進・藤川しんいちを国会へ

大阪シニアクラブ事務局長　田井中　藤男

3月27日に民主党、維新の党が合流し「民進党」が結成された。党名決定まで色んな意見があったが、党名よりも、綱領・理念の確立の方が重要である。自公政権に対する、これまでの野党の離合集散を、川柳で「政策がないので、野合すぐにでき」と揶揄されてきた。

民進党の理念は、その立ち位置を、生活者、納税者、消費者、働く者とし、幅広く国民の立場からの政策実現をめざしているが、働く者の立場は四番目に位置付けられている。

日本の政党で働く者の立場を明確にしている政党は少なく、民進党は働く者の立場に立つ政党としての政治活動を進めてもらいたい。

人類の歴史のなかで、人間の祖先は類人猿の一種族と云われ、二本の足で大地に立つようになり、前足が手となり、その手で道具を使い、労働することができるようになり、自然に働きかけ、生活に必要なものをつくってきた永い歴史の中で今日の経済社会まで発展してきた。いつの時代も労働が基本、働く者が主人公である。

ＪＡＭの統一は、それぞれの産別の歴史から、色んな意見の違いがあったが、連合の結成と云う背景の中で、金属・機械・製造分野の産業別組織として他産業の先陣をきって結成された。

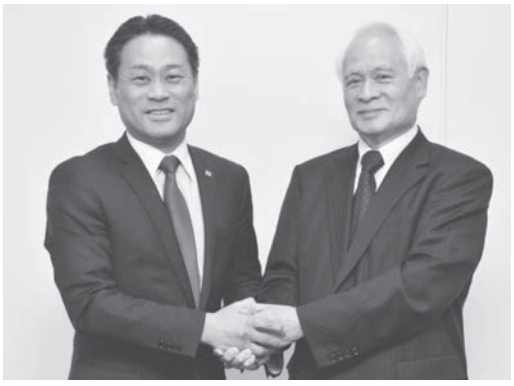
「ものづくり、人づくり、くにづくり」はＪＡＭの理念と組織を表した、素晴らしいキャッチフレーズだ。

「誇りを持って」ＪＡＭの労働運動、政策実現活動を現退一致で力強く進めよう。

労働組合の政治活動はその組織の力量が示される。シニアクラブの強固な内部固めで藤川しんいち候補予定者を国会に送ろう。

主　張

全力をあげた支援を確認
大山会長とガッチリと握手（定期総会）



ものづくり政策と生活の安定が必要！
と政策実現を誓う（長野）

JAMとシニアの代表として全力を
あげて頑張る！と決意（新潟）

全力投球だ、藤川しんいち！
JAM組織内候補予定者

消費税率を10％へ引き上げる議論が活発になってきたように感じる。低迷する個人消費や指標から7月の参議院議員選挙を控え、延期への意見が台頭しているが財政健全化への影響を懸念する意見も強い。延期すればその判断を巡り衆参同時選挙の可能性もあり選択肢も変わってくる。情勢の変化はあってもシニアの声に耳を傾ける「藤川しんいち」副会長を国会へ送らなければならない。熱い思いを訴えている藤川しんいちへの支援を現役との連携でさらに強めていきましょう。

藤川しんいちの政策

①公正取引・技能継承を進めます。

ものづくり産業に働く仲間のための政策を推進します。中小企業に働く仲間が7割を占める社会で、大手企業と中小企業の間の公正取引を確立します。ものづくりの技能を継承する・技術の能力を高める公的支援を充実します。

②労働者保護ルールの改悪を阻止します。

労働者にとって守られるべき最低のルールが破壊されないよう全力で立ち向かいます。法律を守らないブラック企業の撲滅をめざし、誰もが安心して働ける社会をつくります。

③仕事と生活の調和を実現し、子育て・医療・介護を支援する仕組みをつくります。

充実してつながり合う生活・家庭・地域をもとに働くことができる環境をつくります。安心して子育てができる仕組みをつくります。子育て・医療・介護などの課題があっても働ける社会をつくります。

④公平・公正な税・社会保障制度を実現します。

生活・働きに応じて公平に負担する税制をめざします。将来の不安をなくし、安心して暮らせる社会保障制度をつくります。

全力で闘おう！藤川しんいち推薦を決定（兵庫）

結成10周年で推薦を決定（三重）

出馬の決意と政策課題を説明（愛知）

岐　阜　第16回研修会を開催
「高齢者介護」について講演

傍嶋　征夫　通信員

ＪＡＭ岐阜シニアクラブは「第16回研修会」を2月13日（土）サンワーク大垣で総勢50人の参加を得て開催した。

北村務会長とＪＡＭ東海・勝野治副書記長より挨拶を頂いた後、中村征子先生を紹介、「高齢者介護について」の講演を受けた。

介護の現状は、平成26年度報告によると、介護の必要な高齢者は５６１・１万人に達し、要介護者を介護している介護者は家族が大半を占め、その内訳は配偶者が26％、子供が22％、配偶者の妻が11％と、家族が親の介護をしている現状を紹介。

老人ホーム等事業者の利用は15％程度。むろん家族が無理なく介護できる環境が整っていれば問題はない。現状は様々な報道がされているように、介護している方のストレスを抱える割合が70％にも達し、平成26年度の自殺者は２４６人と言われている。

介護保険は、高齢者は1割負担。親や兄弟、自分や配偶者の介護が必要となった場合、介護保険を利用できるが主治医の審査意見書が必要なこと。要支援１～２、要介護１～５に認定されれば介護サービスが受けられ、ケアマネージャーが訪問し、サービス内容を説明するので活用することを勧めるなど、先生は看護師の免許を取得され、医療センターを経営されておられる関係で、きめ細かく、時にはユーモアある話題を交えた講演であった。